

発行 社団法人
所沢市シルバー人材センター

編集 広報部会

〒359-1143
所沢市宮本町1-1-2

電話 04-2928-8695

FAX 04-2924-0630

ホームページアドレス

<http://www.sjc.ne.jp/tokorozawa/>

ところざわ



新春特集

亥年生まれの座談会

亥年の方にお集まりいただき「昔のお正月」をテーマに、遊び、食べ物、ファッションについて話し合っていました。(4～5ページ)



親父が言う、子どもは家の中にいちゃいかん！暗くなったら帰ってこい。いつも集まって遊びました。

野球のボール、バット、グローブ全部手づくり、ボールはぼろきれを巻いて紡績糸で巻いた、試合中にボールがほどこけて糸がのびていく……



新年のごあいさつ

理事長 秋山 脩



新年明けまして

おめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかに新年を迎えられた事と心よりお慶び申し上げます。

平素は、会員の皆様におかれましては当センター事業の推進に格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様方の強い就労意欲に支えられ、当シルバー人材センターの実績も上向きの数字を示しております。然しながら、今年の4月にはいよいよ団塊の世代を迎えようとしております。各企業においては定年延長、あるいは継続雇傭など、どの程度の実施が得られるものか分からないところ です。

いずれにしても会員の急増は明らかであります。そこで会員の増加をプラス志向に発想転換して、これを一つの機会と捉え就労拡大に努

めることにより道は拓けるのではと考えます。

シルバー人材センターの運営につきましては「自主・自立・共働・共助」の理念に基づき、会員の働く意欲を充分に活かせるよう、職員と共に努力して参ります。また、いつも申し上げていることですが、事故が多発しております。いずれの事故も、もう少し注意すれば防げたと思われるものだけに残念であります。

シルバー人材センターが地域のニーズに答え得る存在として、会員皆様と共に邁進して参りたいと存じますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

亥年生まれの会員の方から

向こう見ずの亥も

はや72歳、石川七緒子

流行の「老人力」にも磨きがかかり、いくらか落ち着きを見せてきた。とはいえ、走りながら考える長年の癖は抜けきれず、時としてむくむくと起き上がる。

人材センターから紹介された新聞

配達もその一つだった。前年は持病の喘息で2度の入院をしたのに「のど元過ぎれば熱さを忘れる」とはよく言ったもの。始めたのは暑い夏の盛りの8月、慣れない配達も早朝の爽やかさに助けられ、好調に滑りだした。

やがて秋も深まり、木枯らしの季節を迎える頃には「月と影とを友として・・」の李白の詩に身を重ねる程のゆとりも出てきた。

しかし問題は元旦の配達、全く予

頌春

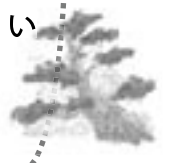
役員紹介



役職名		氏名
顧問	齋藤	博
理事長	秋山	脩
副理事長	田中	文雄
専務理事	小林	辰
森田	勝	治
山口	博	
五社	よし	子
押切	辰	弥
九鬼	春	雄
村上	和	枝
橋本	英	世
前田	元	吉
大坂	秀	子
山内	康	久
貫井	弘	幸
小檜	正	幸
小野	民	夫
鏡	論	
粕川	博	
大野	勉	
監事		

私の生きがい

所沢地区 84歳 斉藤金作



復員後38年間勤めた会社を昭和58年7月に定年退職した。

在職時代から植木盆栽が好きだったのでその道の本をよく読んでいたし、休日を利用して自宅や親戚、近所の庭の手入れをしていたので、ある程度は自信があった。たまたま次男が「会社を辞めたら植木屋をしたら・・・」に意を強くし、退職後プロの技を知りたくて親方についた。「気に入らなければ、何時でも首にしてください」と言って使ってもらった。親方は仕事については何も言わなかったが、丁寧過ぎるといった。私は常に親方や先輩の仕事を盗み取りしながら自分のものにしていった。

ある時、近所のシルバー人材センター会員の方の勧めで昭和59年9月シルバー人材センターに登録、7日間先輩について研修し、その後独り立ちした。この仕事では先輩には負けたくないと思っていた。

2年を経て指名の仕事を受けた時は非常に嬉しかった。それからは年

毎に指名が多くなり、年間を通して指名作業が私のスケジュールになった。発注者の理解に檄を貰い意欲が湧いた。東奔西走で郷土の再開発に貢献し人の温もりを改めて知った。春夏秋冬、植物と共に20年、3年の停年延長を断ってシルバー会員として残りの余白を自分なりに埋められたことは植木職人冥利に尽きる。今年7回目の年男、会員の皆さんにありがとう。

八十路越え亥年迎えて今朝の春
門冠り松にしらじら初日の出
福達磨値引き手締めの中

金作

私の少年時代

昭和10年生れ 池田重功

昭和15年ごろ父親の仕事の都合で満州に家族で渡満した。その頃から日本の軍国主義は色濃くなっていた。「僕は軍人大好きよ、今に大きくなったなら、勲章つけて剣下げて・・・」や「エンジンの音ゴウゴウと・・・胸に描きし若鷲の印は我らの戦闘機」等の軍歌で軍事色をあり、ラジオニュースは「○○に於いて敵海軍と戦闘状態に入れり、敵

戦艦隊を撃沈せり、我が方の損害軽微なり」と、勝った勝ったの報道の割には私達の生活は苦しくなり、欲しがりません勝つまでは・・・と、敗れた衣服に継ぎをあててボロボロになるまで着た。食糧事情も配給制となり、食糧難で学校に弁当も持っていけなくなった。学校も、若い男の先生は招集され、残った先生は老いた校長先生と女学校出の代用教員だった。防空壕を掘ったり空き地を開墾したりして勉強は殆どしなかった。東京が空襲されたとか、沖繩が玉砕した、など聞いた覚えがない。



昭和20年戦争が終わって一週間もすると、ソ連軍の戦車隊が入ってきた。怖れて日本の女性達は顔に炭を塗り男装していた。

私は中国人の豆腐屋で働かせてもらった。コリーヤン飯やオカラ食食べ放題は嬉しく、帰る時にはオカラと

豆乳少々をもらい、我が家の食生活に大きく貢献した。

だが、母親は21年に栄養失調で他界し、このときほど食糧不足を恨んだことはない。続いて父も24年他界した。

戦争の愚かしさを思い知った少年時代だった。

はいのう
背囊

短歌

沓澤勝美



◎「星^{いし}の葉っぱ笑っている」と
児童は言うた
うれしき事たぶんあるだろうと。

◎御印^{ごうやま}は高野椿なる種子ひとつ
ぐんぐん伸びて明日の樹となれ。

新春 亥年生まれの座談会

所沢市シルバー人材センター



昔のお正月

遊び

食べ物

ファッション

ご出席(敬称略)

山野井宏、東島太一、齊藤金作
富岡多助、秋吉英生、納富孝
菅沢 功、神保達子、清水安子
平野 功、竹之内政夫、大平昭人
福本重雄、松本長寿

亥年の方にお集まりいただき「昔のお正月」をテーマに、遊び、食べ物、ファッションについて話し合っていたきました。

松の盆栽、干支の絵の横断看板、新春らしいランチョンマット、和菓子全部手作り、そんな中、ワイワイ

がやがやとおしゃべりを気楽に楽しんでいただきたながら話が弾みました。「お正月の遊び」

*埼玉県桶川で育ちました。元日には学校に行くと、二宮尊徳像の傍にある教育勅語を先生が読む「朕惟フニ我力皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト・・・」の意味が分からないが終らないと遊べない。

表でコマ、鬼ごっこ、全て屋外を中心に遊ぶ。親父が言う、子どもは家の中にいちゃいかん!暗くなるまで屋外にいたくちやいけな。4年生位のガキ大将に1、2年生がくっついて歩いた。他の地域の子にいじめられると、皆をつれてカタキ討ちに行ってくれた。一月正月、二月正月があった、但しお年玉は1回せいぜい10銭。

*所沢の柏原は貧乏な村だったからお年玉をもらった覚えは一切ない、風は買えない、作るしかない。

*末っ子だったから、着物でも、おもちゃでも何でもおふる、木のコマでも兄貴のおふる、

*檜の木でコマを作った、栃木は麻が豊富にとれたので、ひもを編んだ

*新潟は2mもの雪、外ではスキー、家ではコマまわし、いろはカルタ、

すごろく、花札までやりました。夜になると友達の家々をガキ大将を中心に7、8名で回り、各家でトランプやカルタをやりました。

*所沢市東狭山ヶ丘は何の娯楽もない純農村、木登り、茶畑とび越しをやりました。植木の木登りはどこの家でも大目に見てくれ、あちこちの家の木を登ることができた。

ガキ大将だった、お正月は兵隊ごっこが楽しみ、夜なべにみかん箱を改造して背囊(はいのう)を作る。親父が学校からの帰りを待っていて仕事を言いつけるので、夜になって自分のことが出きる。学年ごとに2等兵、1等兵を決め、竹の軍刀をつけて、背囊に焼いた餅を入れ、東狭山ヶ丘、西埼玉病院、小手指駅あたりの山の中を敵味方に分かれ駆け回っていました。

司会：昔はのびのびと自由に遊べたのですね。時間的に余裕があったのでは？

*そんなことはない、オヤジが学校から帰るのを待っていて畑での手伝い、山での薪集めをさせた。

祖母が学校からの帰りを待ち、弟2人お守りさせられた。

*子どもを負ぶって麦踏すると重しになって丁度よかった。

*家に着くと仕事がつまっているので、学校の帰り土手で宿題をやりました。元旦には、上組中組下組6年から1年生が書道の道具を持って6年生の当番のお宅に行き、書初め、作品をやり出して、その家でご馳走になることがとっても楽しみでした。食べ物

物が欲しくて書初めをやりました。いつも集まって遊びました、今はめいめいにやる遊びですね。

*野球のボール、バット、グローブ全部手づくり、ボールはぼろぎれを巻いて紡績糸で巻いた、試合中にボールがほどこけて糸がのびていく・・・、

*「海は広いな大きいな」ずっとと海を知らなかった。高校になって鎌倉に行き、海を見た、こんなに広いのかと感動した。海に憧れた。

いつもは入間川で海水浴？

司会：女性の場合の遊びは？

*お手玉、おりがみ、何でも折れます、何かあると浅草の観音様へ連れられた。さらわれるとか、人さらいが来て、サーカスに売られちゃうとよく言われた。

*九州は長崎の有明が近く、魚とり、しじみ取りを手伝い、やまの中を走り回った。5寸釘たおし、ビー球、めんこをやりました。

「食べ物」

＊九州の大部分では、お正月は12月28日の餅つきから始まります。お正月は銀めし、あとは麦飯、いも飯。

＊元旦は学校へ行く、学校で式典があり、紅白のお菓子が配られるのが楽しみ。

＊三ヶ島生まれ、まず楽しみはお正月の銀めし、楽しくて早くこいこいと思つた、遊べることに食べることが楽しみ。元旦は式典後の紅白の饅頭が楽しみ。

＊栃木生まれ、お正月、朝はうどん、昼は餅、夜は麦トロ口飯、今でも続けている。

＊お雑煮、東京では、ダシは鶏、三つ葉、里芋、大根。

七草がゆ、11日蔵開き、小豆がゆに砂糖をつけていただく。

飛行機ガラス（アクリル）をこすると、ドロップの香りがして人気があった。嗅がせて、嗅がせてとみんなが寄ってくる。

＊砂糖なんてありません。

昭和30年頃はサッカリン、ズルチンを使いました。これらを入れて水で溶かして飲みました。

＊栃木では水あめが調味料の代わりになりました。

＊昭和19年～昭和21年の雑煮は餅の代わりにうどん粉を練つたものでした。食べる事ができるだけ幸せでした。すこし餅粉が入っていたかも。

＊餅に2種類あり、丸いのと、四角いのがあり、丸型は関西、四角は関東以北。

＊具たくさん、里芋、油あげ、人参、菜っ葉などのお雑煮。

＊お醤油だつて高価、とても肉などはなかった。

＊卵を産まなくなった年老いた鶏をたべるくらいか、カレーにはちくわを肉代わりに入れた。

＊お醤油のお雑煮、油あげ、里芋、東京の会社で味噌のお雑煮をいただきます美味しかった。

「ファッション」

＊戦争中、秋口すすきの穂を学校へ集めた。これは飛行服の綿代わり、

松の根つ子を集め：松根油から飛行機燃料に、またヒマシ油を集めた、

これはエンジンを冷却するために使用される、埼玉県桶川にいたが戦争の色が濃く、小学校3年頃は兵隊さんの手伝いみたいでした。

＊ちよつと履物が新しいと盗まれた。高校生のとき12月大阪に行くのに着るものがない、おやじの穴のあ

いたオーバを借りた。

小学校は裸足または下駄履き。

＊東京では、学校に新しい靴を履いて行くと、盗まれた。

今の子ども達は恵まれすぎている、昔もいじめはあったけど一人一人が打たれ強かった。

着るものは、兄姉からのお下がり、破れたらつぎ当て。

＊学生服は表側を着古した後、裏返しして着ていたので、胸ポケットは右になる。

＊お手伝いのごほうびだったのか定かでないが、おやじが黙って長靴を買ってくれた、嬉しくて嬉しくて天気の日も2週間通学にはいていた。

みんな紺の着物を着ていた。

＊病氣した時は何故か知らないが着物をきて行きました。

＊シートみたいな洋服だった。

西武の偉い人の息子は、女中のいた家だが、ラシャの洋服を着ていた、坊やと呼ばれていた。

司会：七五三では男の子は大将の服装でした。小学校時代、元旦は新しい服を着ることになっていた。

＊新しい服はなかったけれど、下着だけは新しかった。内風呂がない、みんな銭湯を利用した。銭湯では力

ゴだった、ラクダの下着、新しい下駄など度々盗まれた。



司会：これからの子供たちに教えたことは？

＊他人にナイフを向ける子どもがいる。自分でカッターナイフを使つて怪我をすれば、切られたらいかに痛いかが分かる。手を切つて血を見て、初めて他人に向けてはいけないということを体験できる。

学童保育の子どもや父兄にナイフの作り方を教えたことがある、グラインダーで金ノコの歯の部分を削り、斜めにカットして歯をつける。作業中に指を一寸切るとこんな危ないことはできないと親が言う、血を流し痛さを知った子どもは他人にナイフを向けない。

この体験をした孫はいま高校生で自作のナイフで鉛筆を削り、ぼくの宝物と言う。

作ったナイフで、竹とんぼ作り、竹馬つくりを教えたい。2階の高さの竹馬に乗ったことがある。高い竹馬に乗れるか。

(阪口記)

12月5日西武ドーム前の中国料理「獅子」で忘年会が行われた。悠和会では、出席される方に楽しんで貰えるようにと幹事一同で準備を進めた甲斐あって、130名の参加が得られた。

会員親睦忘年会 大盛況

悠和会だより



会は森澤幹事の司会で11時30分開演。秋山会長の挨拶に始まり、「悠和会」の命名をされた橋本英世・門脇富雄両氏に記念品が贈呈された。森田常任幹事の乾杯発声で宴会に入

り、会場の皆さんは楽しく談笑されていた。宴の中、余興のカラオケでは各人得意の歌を熱唱。小松亮司さんの舞踊に会場から拍手喝采。後半に景品抽選会が行われ、当った人、外れた人一喜一憂で大いに盛り上がった。また、会場内にはカメラサークルメンバーの撮った写真が30点近く展示され、その他新しいサークルの立ち上げをする仲間集めも話し合われていた。

時の経つのも忘れるばかりであったが、談笑も語り尽きず、名残惜し

平成 18 年度 悠和会 会員親睦忘年会 会計報告

収 入	金 額	支 出	金 額
参 加 費 (130 名)	390,000	パーティー費	390,000
会から補助	37,625	飲 み 物 代	20,000
寄 付 金 (理事長)	10,000	賞 品 代	29,925
欠席キャン セル料(5名)	5,000	看板制作費	2,700
合 計	442,625	合 計	442,625

みながら、田中副会長の締めめで、14時30分に閉会となった。(岩崎記)

理 事 会 報 告

従来、理事会は隔月に開催されてまいりましたが、平成18年度より毎月開催に変更となりました。

変更の主な理由はセンター定款第6条の正会員として入会しようとする者は、理事会の承認を受けなければならないとなっており、毎月入会申込者の適正な承認を図るためのものです。

さて平成18年10月31日(火)に役員理事会が開催され審議の結果、次の議案を全て承認されました。

主な議案の概要

議案第1号

平成18年上半期事業及び監査報告について

事業には積極的な就業開拓に努めた結果、上半期契約金4億2千558万3千874円となり、前年度同期と比較して3千244万7千197円8%程上回ることとなりました。

監査については平成18年度上半期の業務及び決算書類は適正に表示されているものと認めると監事より監査報告がなされました。

議案第2号

正会員として入会者の承認を求める件について

平成18年10月新規登録者32人

平成18年10月31日現在、登録会員2068人

議案第3号

賛助会員規定の一部改正について

賛助会員会費の明確化の為の提案です。

賛助会員規定第3条による会費は次の通りです。

「個人会費一口年額1,000円」

「法人会費一口年額5,000円」

但し、正会員からの移行会員は個人会費となります。

(田中記)

報告事項

就業適正委員任期満了により新委員会の構成委員

まだはじめ
前田 元
よしまつのぶこ
吉松直子
やまうちやすこ
山内康子
もりざわ ひろし
森澤 弘

かねこうたこ
金子哥子
ごとうふみあき
後藤文昭
いしやまたかお
石山隆男
みかみひさお
三上尚男

おじゃましまーす

職場訪問記

(38)

福祉サービス・

食事作り

発注者のAさんは75歳で一人暮らしの方、持病があるため知識のある人をとの希望でした。

会員の就業時間は火、木、土曜の9時から11時までの2時間です。



今日の献立

取材日は11月末、曇り空の寒い日、10時を少し過ぎたところに訪問しました。「おはようございます。シルバー人材の広報です。」と申し上げますと、「いつもお世話になっております。」と快く迎えてくださいました。

「食事の支度をしてもらっています、どうぞお上がりください。」との事、キッチンでは会員が忙しく調理の最中でした。11時までに調理を終えることになっていますので、作業が終わるまで続けていただきました。その間に、Aさんのお話を伺うことが出来ました。

奥様を亡くされてまだ間もないため、とても気落ちされておられ、体調が良いときに基会所へ行くくらいで、まだ積極的に何かをする気が起こらないそうです。それでも食事の支度はしなければならぬので、料理番組を見て覚え、少しは作ったりしているそうですが、「男子厨房に入らずの時代の人間ですので経験が全くないので覚えてもすぐ忘れてしまいます」との言でした。

調理も終わりましたので会員の方から一日の作業の流れを伺いました。朝少し早めに出て来てAさんに何を食べたいか、他に必要なものがあるか伺い、買い物のお財布をお預か

りして、買い物に出かけます。買ったものの整理を済ませ調理に掛かります。調理が終わると少しお話をしてから帰宅するそうです。

Aさんは知識のある人をと希望でしたが、何か資格が必要でしたか？の問いに、「必要かどうかはわかりませんがホームヘルパー2級の資格は持っています・・・」

私はこの仕事に就く前に、自分はどうのように生きたいかを考え、精神的な面で人の役に立ち、いろいろな人と係わりを持ちたいと思いましたので、その気持ちを事務局へ伝えて紹介されました。そして料理をする事も好きなのでこのお仕事をお願いした」と、話されていました。

最後にAさんに、シルバーにどのようなサービスを望みますかとお尋ねしましたら『出前サービス』（注文した事をする）だけでなく、仕事を『規格化』（たとえば食事ならこんなものが出来ますよ、のように）してあったら選びやすいとのことでした。

Aさんは当会員に「とても感謝しています」と、会員も「ありがたいお仕事で楽しいです」と言っておられました。

(志賀記)

はくがくだわー
薄学駄話

「七難」

七難は七つの災難と言う意味であり「法華経」「薬師経」「仁王般若経」などに見える様々な災難の総称で、仏法の力で災難が消滅すると言うことらしい。心に燃える業想念の火の事、つまり怒り、嫉妬、憎しみの炎で、この炎は一切の功德を焼き尽くすと説いているが、今では災難、盗難とか、一般的災難又は日常的なあらゆる困難な状況を意味している。また仏法では災難、困難と言う意味であつたものが、諺では難点、欠点と言う意味に変わっている。

七難と言えよく「色白は七難隠す」と言うが、これは色白は得だと言う意味に使われることが多いが「色の白さでカバーされているけれど、実は欠点がある」と言う意味で、決して褒め言葉にはならないということになるようだ。

戦国の武将山中鹿之助が「我に七難八苦を与えたまえ」と言った言葉は有名である。

(中村記)

植木剪定



植木剪定講習会に参加して

松井地区 吉村 勇

初日、二日目の午前中は雨、座学講義で良いスタートになる。16名の生徒は渡辺先生の講義に集中する事ができ、剪定に対する心構え、植物の性質など資料と経験からの説明で解りやすく話され勉強になった。

二日目の午後は、午前中練習した縄の結び方の実践。室内では出来たのに実際に垣根を縛るとなると中々要領得ない、終わる頃には何とかか？

講習の残り3日半は実践、実技。聞くのと自ら行うのと段違い。組を作り剪定作業などをおこなう。終了後、その状態を先生とシルバーの先輩、私達で作業仕上がりを見て廻り、批評、注意点を指摘され納得。刈込



男結びの練習

みバサミ、剪定バサミ等での仕事を具体的にマンツーマンで教えていただき、成る程・・・いい感じに出来上がる。中にはもう職人風の方もいて将来が楽しみ？また、植物も光（陽光）、風通しが重要だと、今まで分っていたつもりでいたが再確認した。

今回、渡辺先生を始め先輩シルバーの前村・亀井・小泉・中村さん4名の班長、図書館職員、シルバー事務局の方々には、大変お世話になり無事16名の諸氏が終了する事ができ、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

(市立図書館の金

木犀を是非見てくださいます、私達が剪定しました)



婦人部

芋煮会大盛況

山口地区 中西久美子

12月1日、今日は婦人部の芋煮会。昨日と打って変わってのよい天気である。

8時半、シルバーセンターに婦人部役員続々と集合。誰の指図なくとも、そこは主婦歴十年の口八丁手八丁の猛者揃い、野菜を洗う者、切る者、味付けと、あつという間に作業は進んでゆく。11時過ぎには出来上がった。100食分の予定であったが、約200人の方に振る舞う事ができた。皆さん、美味しいおいしいと言ってくださり、ほっとしたり、嬉しかったりで、1時間足らずで鍋底が見えてしまった。

美味しい和菓子を100個提供していただいた上田様、薬味を買って来て

くださった方、なんやかやと準備いただいた事務局の方、食べに来てくださった方々、本当にありがとうございました。

そして一番楽しんだのは婦人部役員、ほんわか暖かい気持ちを抱いて帰宅しました。



おいしい おいしい



地区だより

三ヶ島地区

各地区で地区懇談会が活発に行われている。今回は去る12月2日(土)に行われた三ヶ島地区(橋本英世委員)の懇談会の模様取材した。

狭山ヶ丘コミュニティセンター集会所を会場に、会員76名の出席を得て、秋山理事長、森田専務理事、山川次長、森澤開拓創出員が出席。

この中で、事業実績の推移、安全就業の確保について、事例をふまえながら説明があり、その後森澤創出委員から就業開拓実態と就業に当たつての要望などを話された。

その後、上田さんの乾杯の音頭で雑談に移る。暫くして質疑応答に入り、15、16名の会員から質問が出され、事務局から納得の行く回答をいただいた。

会場内では微笑ましい出会いと、光景がみられた。ビックニュースと言えるものがあつた。それは福島県と同じ旧制中学出身の方お二人が偶然出席しており、50年振りの再会となり、旧交を温められたことです。まさに感動的でした。

有意義な地区懇談会でした。

10月・11月の懇談会開催地区

吾妻地区

去る10月31日懇談会があづま荘で開かれた。出席者は会員38名。

小手指地区

去る11月18日懇談会がこてさし荘で開催された。出席者は会員46名。

山口地区

去る11月20日懇談会が岩崎上町自治会館で開催。出席者は会員24名。

富岡地区

去る11月26日懇談会が開かれた。出席者は会員30名。

各地区では秋山理事長からの挨拶があり、市のフェスティバルの報告及び、就業時の事故多発について注意をして欲しい旨の話があつた。

森田専務より新任の挨拶があつた。

山川次長の事業実績報告があつた。

渡邊・森澤両開拓創出員より就業開拓状況及び毎水曜日に実施している就業相談に関する詳細報告がなされた。

尚、山川次長より広報配布についての配分金単価を市と交渉難航中、また今後防災マップ、各選挙に関する配布作業を配布単価とともに検討交渉中であることの報告があつた。

(地区により異なります。)(小島記)

第27回所沢市市民フェスティバル

が昨年10月28日・29日所沢航空記念公園で開催された。第1回目の悠和会主体の参加である。

2日間好天に恵まれ、両日で5万人の出入りと言う。だが、福祉関係の場所は奥の方なので思ったより少ないようだったが、午後になって大分賑わった。

市民フェスティバルの報告

婦人部による手作り品もブローを思わせる物も数多く見受けられ、買うかどうか迷っているお客様には販売員が助言していた。皆の活躍により全体で10万円弱の売り上げが出た。テントの外では障子の張替えの実演を始めたアツと言う間に周りを囲まれ障子に視線が集中した。

何よりも風船のサービスに人気があり、次から次へと色の指定、大きいのがいいと言う子供たち、係員も間に合わない。

風船を手にした時の子供たちのいい笑顔。そのまわりでは当センターのチラシを配布しPRは充分達成する事も出来た。

フェスティバルも無事終わった

(小島記)



あとがき

◎平成19年、亥年生まれの114名(84歳5名・72歳109名)の会員がおられます。亥年生まれを猪突猛進型というが、本来は勇気と冒険心にも富んでいるとも言われる。大いなる活躍を期待しております。

◎本号から「理事会報告」が登場します。この情報が発信される事により、センター運営が会員に身近なものとして感じ取っていただけたと思います。

◎広報部では内容の工夫、親しみやすい誌面作りを心掛けていきます。会員の皆様からのご意見、ご要望、俳句・短歌・詩・川柳など、多くの方から積極的なご寄稿をお待ちしております。

◎表紙写真は、所沢市出初式。

(岩崎)

県外視察研修

理事 橋本 英世

去る12月14・15日に役員、部会員、地区委員の総勢33名が(株)千葉市シルバー人材センターに伺いました。

今回、訪問した(株)千葉市シルバー人材センターは、当センターと比較して人口の多さと共に、会員数で約1.5倍、就業実人員で約1.3倍と上回っております。

視察研修の目的は「中・長期基本計画」についてであり、千葉市シルバー人材センターは、この分野では先進しています。平成13年度から検討を始め、15年度から10年計画で実施しています。

当センターは、2年後に30周年を迎えますが、この分野においては、これからの段階であり、先進シルバーのノウハウを参考にして所沢らしい中・長期基本計画の策定に早急に取り組む必要が求められます。

研修を通して言えることは、当センターは体制作りに遅れが感じられ、種々の面で大変参考になりました。また、安全就業、適正就業等、その他事業に関する質問も交換させ

ていただきました。

(株)千葉市シルバー人材センターの皆様には、大勢でお伺いし、大変なお世話をお掛けいたしましたこと、誠にありがとうございました。

往復の車中では、研修前の勉強、

研修後には、一人ひとりから感想・意見等の発表があり、最後に理事長から、就業開拓面の拡充を含めた、今後の方向の見解が示されました。

役員等と新しい部会員が一緒に研修を行い、参考になったことが多々あったと思います。

これから各分野で、研修の成果を活かしていただき、所沢に合った良いものを創り出して、所沢市シルバー人材センターの発展に寄与されることを念じながら報告いたします。



お知らせ

【健康相談日】

2月15日(木)午後
3月15日(木)午後
4月19日(木)午後

切り絵・平野功 作

【設立30周年記念行事 実行委員会募集】

平成20年10月20日、設立30周年を迎えます。それに当たり実行委員を募集します。詳しくは別添案内をご覧ください。

【就業相談日のお知らせ】

ご覧ください。

就業相談窓口を毎週水曜日の午後(13時～15時)に実施しています。

未就業会員の方は、是非ご相談ください。

【市営駐車場ご利用について】

旧庁舎前の元町市営駐車場は、平成19年3月1日より工事の為、利用が出来なくなります。ご注意ください。

《シルバー豆宣伝》

当センターの個人情報保護に関する方針は次の通りです。
ホームページにも掲載しておりますので、ご確認ください。

～個人情報保護方針～

当シルバー人材センターは、地域社会に開かれた高齢者の団体として地域住民及び地域諸団体等のご協力を得ながら、現在、2,000人強の高齢者の方々がシルバー人材センター事業による多様な就業機会を通じ、その長い職業生活で培われた能力と豊かな人生経験を活かして活躍するとともに、活力ある地域社会づくりを目指して活動しております。

シルバー人材センター事業の実施にあたり、高齢者や発注者等の皆様の氏名、住所等の個人情報を利用させていただいておりますが、当シルバー人材センターにおいては、個人情報は個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであるとの認識に立って、個人情報の保護に関する法律及びその他法令(以下「個人情報保護法」という。)を遵守し、次の方針で個人情報の適正な取扱いに努めます。

なお、個人情報の詳細な取扱いについては、社団法人所沢市シルバー人材センター個人情報の保護に関する規程によることとします。

- 1 個人情報は、シルバー人材センター事業を実施するため、個人情報保護法に則って取扱います。
- 2 個人データは、本人の同意なく第三者へ提供いたしません。
- 3 個人データは、利用目的の範囲内において、正確かつ最新の内容に保つよう努めます。
- 4 個人データの漏えい、滅失又はき損の防止、その他の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じるとともに、役職員及び会員に対し、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るための啓発その他必要な研修を行います。
- 5 保有個人データについては、本人から開示等の求めを受けた際には、適切に対応します。
- 6 個人情報の取扱いに関する評価と見直しを定期的に行い、その改善に努めます。